

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400214		
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	秋田県大館市泉町9番19号 泉町地域ふくしセンター2階		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、ご家族様や地域住民との交流を大切にしている。無理のない範囲で家事等行ってもらういりのある生活を送ってもらえるよう、また、余暇活動や行事を通し利用者様が笑顔で楽しい生活が送られるよう支援している。1階のデイサービスセンターを借り運動会や敬老会等の行事を行ったりレストランで外食したり同じ建物の中で気分転換を図る事が出来る。主治医やご家族と連携を図り体調不良の早期発見、早期対応に努めている。また、デイサービスセンターの看護師の協力を得ながら健康的な生活が維持できるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年11月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夏まつりは、地域住民や家族も含め、200名以上が参加する一大イベントであり、まさに地域の祭りとして認識されている。ベランダや屋上からの眺めは格別で、鳳凰山の大字焼きが一望できる。広々とした2階のベランダの解放感から、2階がホームであるという不便さを感じさせない。1階のレストランへスタッフと個別に出かけ好きなメニューに舌鼓を打つことも出来る。開設以来、スタッフが持ち回りで学習会での講師を担っており、自ら学習し他の受講者に伝達することが、スタッフの資質向上に非常に有効。各居室入口に暖簾を活用しているが、一つとして同じ模様はなく、それぞれの個性や好みに合わせており、多種多様である。コロナ禍で面会が制限される中、行事に参加している笑顔の写真で構成された広報や状況報告が「元気な姿を確認できとても有難い」と家族から感謝されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭におき、職員間で共有しその人らしい生活を送れるよう努力している。	開設時に初代管理者を中心に理念を作成。家庭的な雰囲気、家族・地域との絆、自分らしく生き生きと豊かな・安心・見守りをキーワードとした理念が玄関に掲げられている。利用者一人ひとりの違いに寄り添い、常に確認、検討することが大切とのこと。理念は年度事業計画に反映され、新任研修でも取り上げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況で、現在は近隣との交流が厳しい現状ではあるが、以前は夏祭り等で交流を深めている。	4階建ての泉町地域福祉センターの2階がグループホーム。開設当初より続いている地域福祉センター夏祭りは、地域住民や家族も含め、200名以上が参加する一大イベント。広い駐車所を利用し、櫓が設置され、フランクフルトや焼きそば、お好み焼き、ソフトクリーム等々自前の出店テントが立ち並ぶ。余興での高校生の応援団演技、婦人会との盆踊りが盛況である。前もって夏祭りを案内するポスターを地域のあちこちに掲示しており、まさに地域の祭りとして認識されている。家族用のテーブルを設置しているが、家族が参加できない利用者には、スタッフが様々な配慮をし、寂しさを感じることはないよう支援すること。センター向かいの保育園とは、クリスマス、ひな祭り等での交流が盛ん。昼食時、白沢通園センター第3事業所(就労継続支援B型)である1階のレストランで多くの住民客が利用する姿が確認できた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に参加されている方々には、支援方法を伝達出来ている。 地域の方、全体には実施できない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状を報告したり、ほほえみ便りなどを参考に意見を聞き、サービスの向上に努めている。	家族代表、民生委員、地域包括支援センター、市介護保険担当者の参加する運営推進会議が2か月に一度開催している。家族代表は2年が任期。昨年はコロナ禍のため数回開催を見合わせた。その他は対面での開催としている。会議では、広報を配布し、ホームの様子を紹介している。家族が遠方にいる参加者が一人暮らしの困難さについて話題にしたり、地域包括支援センターから、地域の一人暮らし高齢者のコロナワクチンの接種状況について報告を受けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も参加されている為、情報報告を行い、助言や意見を頂いている。	地域包括支援センターとは、法人の在宅部門との連携の必要性から、特につながりが強い。市介護保険係に毎月入居状況の報告等で連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 ぼうい	身体拘束委員会を3ヶ月毎に行い、話し合っている。また、その都度、不適切なケアについても職員間で共有している。 学習会も行い、職員の意識づくりにも努めている。	身体拘束廃止委員会での議事内容結果が、全スタッフに回覧・周知されていることが、捺印やサインで確認できた。身体拘束廃止及び虐待防止対策に関する研修が、研修計画に盛り込まれ、定期的実施されている。開設以来、スタッフが持ち回りで学習会での講師を担っており、自ら学習し他の受講者に伝達することが、スタッフの資質向上に非常に有効であると感じた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、施設内での学習会で学ぶ機会をつくり、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会や研修、他部所からの回覧資料を確認し、その情報を共有し支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会の際に、家族から疑問や心配事などないか確認し両方の情報を共有している。 重要事項説明書を使用して説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や生活の中で意見、要望を嗜好調査表を活用しながら聞いている。意見があった場合は運営推進会議で報告している。	コロナ禍で面会が制限される中、行事に参加している笑顔の写真で構成された広報や状況報告が、「元気な姿を確認できとても有難い」と家族から感謝されている。「忙しい中でも丁寧な電話対応が素晴らしい。」「とても親切。」「ホームの雰囲気明るい。」等々。面会は玄関やエントランスに制限されていたが、間もなく居室等で面談できる見通しの可能性を期待している。 家族が同行する通院時や外出時には、声かけをし、意向を確認すること。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	支援ノートを活用し意見や提案など思ったことは、記入し、支援会議などの議題とし、職員間で話し合い支援に繋げている。	各ユニット毎に、支援(連絡)ノートを活用しており、小さなことでも気づいた時点で問題提起してもらうことが習慣化している。スタッフの個々の事情に応じ、出来る限り働き方を選択できるように、働き方改革に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司との面談を実施し、各職員が自分の思いなどを提供出来る場がある。上司と相談することで、現状を再確認し業務に繋げていけるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内学習会を通して、個々のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内合同研修や外部研修がコロナ禍のため、開催出来ない状況もあり、交流活動が出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉を傾聴し、個々の要望に合わせ、安心した生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の際に、ご家族からの要望に耳を傾け、毎月の手紙などで近況を報告し、話し合いながらsイン来関係の構築に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や特徴を生かしながら、孤立する利用者を作らないよう、話題を提供し良い関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話の際は、情報報告し共有をしながら、良好な関係が築けるようつとめている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの良好な関係を保持しながら、利用者の皆さんが楽しく生活できるよう支援している。個々の安心する場所などを把握し、ストレスがないよう見守っている。	友人が訪問したり、兄弟や孫と共に家族でドライブや外出に出かけたりしている。通院時や買い物の帰りには、ドライブを兼ねて自宅周辺を車内から眺められるよう工夫している。前回の外部評価結果を踏まえ、コロナ禍が落ち着いた際には、更に思いを引き出し、行きたい所や馴染みの場所に、個別レクリエーションとして「出かけた」との意向が確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、見守りをしながら職員が付き添い、不安を与えないよう心掛け安心して頂けるような声掛けに努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になった利用者の状況に合わせ、適切な介護サービスの提供や助言に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、希望や悩みなどを把握出来るよう関係性を築き、思いを引き出せるよう心掛けている。また、困難な方は生活状況やADLを踏まえ支援会議を行い、出来るだけ本人のためになるよう検討していく。	調理の仕事をしていた利用者は、お菓子作りに勤しんでいる。針仕事が得意な90代の利用者は、その手際の良さは折り紙つきで雑巾縫い等で力を発揮する等、食器拭き、お盆の設置、洗濯物たたみ等々、利用者がホームの一員としてそれぞれの役割を持ち生活している。居室のテレビで相撲観戦する方は、熱い応援をしながら楽しんでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族に聞いた情報や本人との会話から、その人に合った生活が出来るように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の普段の様子を共有しADLを踏まえて、支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族様からの希望を踏まえ、職員間で支援方法を考え介護計画を作成している。	支援ノートに利用者個々への気づきや思い、アイデアを即記入する習慣が浸透している。1月より、ケアシステムを導入し、個々の支援対策や体調等のデータ化により、よりスムーズに把握検討できるよう改善している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援ノートを活用し、気になったことがあれば、自由に記入し、職員間で話し合い実践に繋げている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、近隣地域などとの交流が出来ていない状況であるが、ホーム内で行事等で、楽しんで頂けるよう努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族やかかりつけ医と情報を共有し、利用者の健康状態には留意し支援している。また、かかりつけ薬局にも都度、相談しながら支援に努めている。	家族の意向により家族が通院付き添いをする事例が多い。利用者それぞれのかつてのかかりつけ医を継続できるよう配慮している。家族による通院付き添いが出来ない等の場合は、十分に相談した上でホームのかかりつけ医に変更する場合もある。コロナワクチンの接種はホームのかかりつけ医が訪問し、実施した。何でも気軽に相談出来るかかりつけ薬局と連携している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が不在のため、1階デイサービスの看護師には毎月の支援会議に参加して頂き、支援や生活について話し合う機会を設けている。緊急時や体調の変化があった場合は、相談し受診に繋げている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期通院などで医師に情報提供している。入院時は、面会で看護師に状況を確認し早期退院に繋げている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態変化など、その都度、家族に報告し希望に添えるように努力している。	入居時に重度化した場合の対応について、一通り説明し同意を得ている。介護度が重くなったり、長期入院によりホームでの生活が困難となったりした時点で家族と相談し、関係者と話し合いの場を設け、不安要素を解決できる方向性を共に検討している。法人内の特別養護老人ホームへの移行が多い現状にある。館内のデイサービスに2人の看護師が配置され、気軽に相談できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応できるようにマニュアルを作成したり、個人ファイルを準備して急変時に備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、職員間で周知徹底している。年2回の避難訓練を実施、地域住民の協力を得ている。	最近夜中11時に震度3の地震があり、起きた利用者が数人。津波や水害による心配はない地域であるが、火災や地震が心配とのこと。前回の外部評価結果を踏まえ、避難後、各居室を検索し最終確認が済んでいることがわかるよう工夫してきた。現在はさらに分かりやすいよう、確認ライトの導入について環境委員会と共に検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や性格を把握し、尊重した態度での声掛けや支援をしている。排泄時は、自尊心に配慮している。	忙しいと何気なく使ってしまう「ちょっと、待ってね」や「座っててください」などのスピーチロックが生じないよう特に心がけ支援にあたっている。虐待ゼロに向けセルフチェック体制を構築し、慣れによる対応の風化を防止している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般において、本人の意思を尊重するように努めている。 利用者が、自己決定出来る内容に努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動は、本人の意思を尊重し参加を募っている。無理はせず本人のペースを大切に声掛けをしながら支援に努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容店を利用し、地域との関係が途絶えないように支援している。 また、外出が困難な方は、訪問理容店を利用している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アンケートを実施し、好みの献立や季節感のある材料で提供している。無理のない範囲で後片付けを職員と一緒にやっている。	毎日の食事は、建物の1階のレストランが配食している。行事食の多彩さが、利用者の数多くの笑顔につながっていることを写真で確認出来た。レストランやホテルの折詰を取り寄せたり、道の駅等で外食を楽しんだりすることも多い。家族と連れ立っての外食も確認出来た。つい最近はおはぎ作りを楽しんだばかり。1階のレストランへ、スタッフと個別に出かけ好きなメニューに舌鼓を打つこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、レストランの栄養士がカロリー計算して作成している。水分補給が進まない方には、本人の好きな飲み物を提供し水分量の確保に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自力で困難な方は、介助にて清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認して、声掛けで時間誘導している。本人の状況に合わせて支援している。	夜間のみポータブルトイレを利用している方が数名。排泄チェック表を活用し、個別の状況を詳細に把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。気になる臭い等は一切感じられない。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や個々に適度な運動を提案し実施している。また、食事の献立に乳製品を取り入れてもらっている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制や通院件数の増加により、曜日、時間は設定は、その都度、職員間で話し合い決めている。洗面器を木製の桶などを準備し昔ながらの温泉気分をを味わって頂けるよう工夫している。	入浴日を火・木・土曜日に定めていたが、現在は立位困難等々に対応し、週に2回利用できるよう曜日を調整しながら柔軟に実施している。浴室はマンツーマン、それ以外は協力しながら支援している。入浴を拒否される場合は、好きな音楽を聞いて気分転換を図り、笑顔を引き出し誘う事例を確認できた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、活動的に過ごして頂き、昼夜逆転のないよう案眠に繋がるよう支援している。また、個々の身体状況に合わせて居室静養して頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬と一緒に配布される説明書を確認し与薬内容や副作用について把握に努めている。また、処方薬に変更があった場合も通院ノートに記録し、職員全員が必ず確認出来るようにしている。変化が見られた際は、医療機関に繋ぎ対応している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に、可能な範囲での家事手伝いを行っている。また、ベランダに出て散歩したり気分転換に繋がるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出が難しい状態が続いている。また、家族と外出される際は、県外接触の有無を確認し、出かけられるよう努めている。	天候を見ながら、利用者2名にスタッフ1名で周辺を散歩し、東大館駅まで少々距離を伸ばすこともある。ユニット毎に、桂城公園の花見、ニツ井町道の駅、弁当持参で北欧の森等々へ出かけている。広々としたベランダで花植えや日向ぼっこが出来る環境である。ベランダや屋上からの眺めは格別で、鳳凰山の大字焼きが一望できる。1階のレストランへコーヒーを楽しむに出かけることも可能とのこと。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務で管理している。 コロナ禍により外出が困難な状態で、お金を使用する機会を設ける事が出来ていない。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などの希望には、職員が付き添い対応している。利用者からは手紙の希望はないが、毎月1回、状態報告の手紙を発送し家族とより良い関係が築けるよう努めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に合わせて、温度調整を空調設備を使用し快適に過ごせるよう配慮している。 玄関や廊下に季節にあった掲示物を飾ったり、行事の際の写真を貼ったりし、楽しんで頂けるよう支援している。	廊下の壁には、生き生きとした誕生会の写真や、一人ひとりに個性豊かなコメントが添えられた利用者の紹介写真等が飾られている。一人用の厚く柔らかなソファがあちこちに配置され、都度利用者の好みに合わせ移動している。食堂の大きなテレビは、時々の利用者に合わせて配置や向きを変更している。大きな窓から壮大な自然や街並みが一望でき、広々とした2階のベランダの解放感から、2階がホームであるという不便さを感じさせないばかりか、解放感を感じる。ワックスを施したばかりの床のおかげで、フロアーが輝いて見えた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状態に合わせてテーブル席の配置を変えたりし、過ごしやすい環境の提供をしている。 ホールのソファなど、自分の席は決めずに、その時、その時で思いに沿った場所でゆっくりと過ごせるよう心掛けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の体調を見ながら、食器拭きや洗濯干し、たたみをして頂き、出来ることはやって頂きながら残存機能の低下防止に努めている。	クローゼットが備え付けられ、各居室にエアコンが設置されている。各居室の木製のベッドはとて家庭的なデザインでまるで新築の洋室にいるようである。各居室入口に暖簾を下げてしているが、一つとして同じ模様はなく、それぞれの個性や好みに合わせており、多種多様である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の負担にならないよう考慮しながら、食器拭きや洗濯干し、衣類のたたみをして頂き、出来る事は行って頂き、残存機能の低下防止に努めている。		